

- 内閣府、国土交通省では、地域で発生した災害の状況を分かりやすく伝える施設や災害の教訓を伝承する活動※などを「NIPPON防災資産」として認定する制度を新たに創設（令和6年5月）。

[内閣府特命担当大臣（防災）、国土交通大臣が認定]

※活動：語り部、防災に係る催事、防災ツアー等

- 今後、認定された防災資産を通じて、住民の方々が過去の災害の教訓や今後の備えを理解することで、災害リスクを自分事化し、主体的な避難行動や地域に貢献する防災行動につなげていく。

（令和6年9月時点：22件 [優良認定：11件、認定：11件]）

## 背景

- 近年、全国各地で災害が発生し、災害後には「まさか自分が被災者になるとは…」という声が発せられるなど、多くの方が災害を自分のこととしてとらえていない。
- 一方で、過去の災害の伝承により、命が救われた事例もある。

## 災害リスクの自分事化に向けて

- 認定された防災資産を通じて、住民の方々が過去の災害の教訓や今後の備えを理解することで、「災害リスクを自分事化」し、「主体的な避難行動」や「地域に貢献する防災行動」につなげる。

## 内閣府特命担当大臣（防災）、国土交通大臣による認定

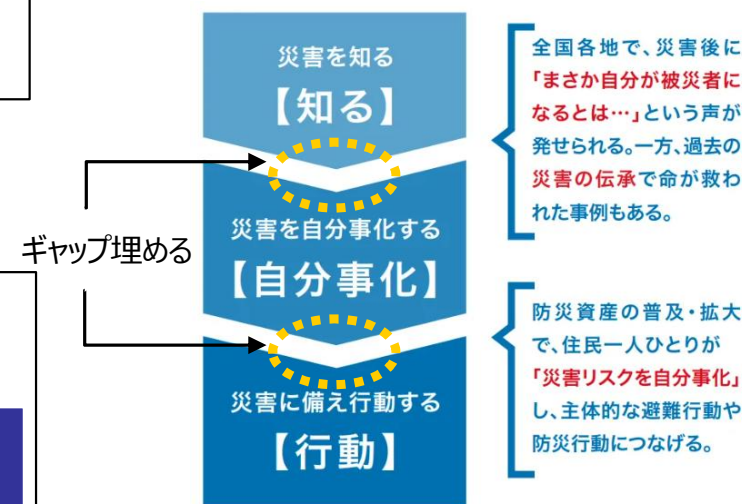
- 内閣府特命担当大臣（防災）、国土交通大臣が認定を実施。「優良認定」、「認定」に区分。

- ・「NIPPON防災資産」認定証の授与
- ・ウェブサイト等でコンテンツを紹介

防災資産の普及・拡大によりこの国に暮らすひとりひとりが、災害リスクを自分事化し、主体的な防災行動へ



ロゴマーク



同時発表：内閣府

令和7年12月17日  
水管理・国土保全局 河川計画課  
河川環境課  
防災課

## 「NIPPON 防災資産」の第2回認定式を開催します ～「NIPPON 防災資産」として新たに10件を認定～

内閣府及び国土交通省では、地域で発生した災害の状況を分かりやすく伝える施設や災害の教訓を伝承する活動などを「NIPPON 防災資産」として認定する制度を、昨年5月に創設しました。

このたび、「NIPPON 防災資産」の第2回認定式を開催します。認定式では、優良認定対象者にあかま二郎内閣府特命担当大臣（防災）と金子恭之国土交通大臣連名による認定証を授与します。第2回認定では、有識者による選定委員会での審議を踏まえ、新たに10件（優良認定：6件、認定：4件）が認定となります。

### 1. 認定式

1) 日時 令和7年12月22日（月）10時30分～11時00分  
（開場時間：9時30分）

2) 場所 中央合同庁舎第8号館4階 410会議室  
（東京都千代田区永田町1-6-1）別紙①のとおり

※本認定式では優良認定（別紙②：6件）に認定証を授与します。

認定式終了後、認定対象者に直接取材いただくことも可能です。

※認定（別紙③：4件）については、各地域において認定証を授与する場を設ける予定です。

日時や場所等が決まり次第、地方整備局等から改めてお知らせします。



ロゴマーク

### 2. 取材について

1) 認定式の撮影・取材を希望される報道関係者の方は、12月19日（金）16時までに、別紙④をご参照のうえ、ウェブフォームにて必ずお申し込みください。

（事前申込みがされていない場合、入場をお断りします。）

2) 撮影にあたっては、プレススペース内をお願いします。

3) 取材に際しては、現地担当者の指示に従ってください。なお、警備の都合上、現地受付時に手荷物検査をさせていただきますのでご了承ください。

4) 取材時には、警備の都合上、必ず社名入りの腕章を着用し、社員証を携帯してください。着用がない場合は、取材をご遠慮いただく場合があります。

5) 当日は、10時15分までに中央合同庁舎第8号館4階410会議室入口の報道受付までお越しください。

6) 駐車場の用意はありませんのでご了承ください。

#### 【問い合わせ先】

水管理・国土保全局 河川環境課 水防企画室

課長補佐 藤岡、水防企画係長 小川

代表：03-5253-8111（内線 35454、35456）、直通：03-5253-8460



## 第2回 NIPPON防災資産「優良認定」

## 【優良】6件

No.	名称	活動拠点	対象災害	選定委員会での選定理由（参考）
1	いのちをつなぐ未来館における震災伝承活動	岩手県釜石市	東日本大震災	無料館内ガイドに加え、有料の館内語り部、防災リュックワークショップ、安否札作りワークショップ、防災ウォークラリー、防災運動会など、幅広い年代に応じた「楽しく学べる体験型のプログラム」の提供を行い、高い評価によるリピーター増により年々参加者数を伸ばしてきている。震災伝承施設運営者の創意工夫により、市内外に独自の防災教育を発信し、防災意識の向上を図る取組を継続的に進めている点などが特に優れている。
2	東日本大震災津波伝承館	岩手県陸前高田市	東日本大震災	被災した実際の消防車両や橋梁、被災の現場を捉えた写真、被災者の証言映像などの記録を通して、事実をリアリティとともに伝え、行動をおこす動機付けにつながる展示を行っている。また、スキルの習熟した解説員を常駐させ、修学旅行、観光旅行、社員研修等、多くの来館者、団体に対して震災の事実や教訓を伝え続けている点などが特に優れている。
3	気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館	宮城県気仙沼市	東日本大震災	被災した気仙沼向洋高校旧校舎を「ありのままの姿（折り重なった車、破壊された校舎等）」で震災遺構として現状保存、公開し、地震や津波の恐ろしさを強いインパクトで伝えている。また、防災減災体験プログラム（語り部ガイド、防災セミナー）により継続的に災害の教訓を伝え続けているとともに、地域の語り部メンバーと協力しながら、地元中高生の語り部ガイド育成に取り組むなど若い世代への継承にも取り組んでいる点などが特に優れている。
4	いわき震災伝承みらい館	福島県いわき市	東日本大震災	「いわき語り部の会」と連携して活動し、館内で実施する定期講話に加え、ガイドツアー、出張講話、オンライン講話など多岐にわたる語り部活動を展開している。また、語り部の資質向上のため年2回の研修の実施や若年層を対象とした新たな語り部の発掘など積極的な取組を行っている点などが特に優れている。
5	天竜川総合学習館「かわらんべ」	長野県飯田市	昭和36年6月洪水	親子で参加し三六災害を伝えていく講座、身近な災害痕跡を巡る防災ウォーキング、災害時の避難生活の模擬体験など、多岐にわたる独自の防災学習プログラムや防災イベントを企画している。水災害の発生しやすい伊那谷の自然、防災に関する知識・備えについて理解を深める多様な活動を、地域を巻き込んだ形で実施している点などが特に優れている。
6	津波・高潮ステーション	大阪府大阪市	室戸台風等の高潮、将来発生が想定される南海トラフ地震による津波	三大台風による過去の高潮被害を伝えるとともに、今後発生が予想される南海トラフ地震での津波災害を体感できる施設となっている。津波・高潮に精通した館内ガイドによる解説を行い来館者に対して災害の事実と教訓を伝えるとともに、学習カリキュラムに含めた校外学習の場として毎年小中学校の団体等を受け入れるなど、継続的な防災教育の取組を実施している点などが特に優れている。

## 第2回 NIPPON防災資産「認定」

【認定】 4件

No.	名称	活動拠点	対象災害	選定委員会での選定理由（参考）
1	学ぶ防災	岩手県 宮古市	東日本大震災	津波の痕跡が残る田老の防潮堤や津波遺構「たろう観光ホテル」などを案内する防災ガイド事業を通して、津波災害の記憶と教訓を現地に訪れる人々に伝えている。定期的な研修によりガイドのスキルアップを図っているほか、小学生から大学生までの遠足、修学旅行、研修旅行として、多くの学生を受け入れ、地域の重要な防災教育の教材として活用し、継続的な取組として実施している点などが優れている。
2	三条市水防学習館	新潟県 三条市	平成16年7月洪水 平成23年7月洪水	二度の大水害の教訓を伝えるため、リアリティのある記録や写真の展示のほか、水害降雨再現シアター等の体験型の施設を導入し、防災教育の効果を高めている。また、近隣自治体の教育委員会、旅行会社とも連携し、被災者の体験を聞く講座、水没車水圧体験、車ウィンドウ破壊体験など幅広い多様な防災教育プログラムを提供している点などが優れている。
3	大垣市輪中館及び 大垣市輪中生活館	岐阜県 大垣市	大垣市における 水害全般	輪中地域の実際の建物や当時の生活の様子に触れることで、洪水と戦ってきた地域の歴史や先人の知恵を学ぶことができる。防災教育の一環として、県内外から多くの学校団体の見学者を受け入れ、治水の歴史と水災害に対する防災の重要性を伝えるとともに、輪中を巡るイベントや体験講座等を通して、輪中地域の生活文化や歴史、先人の取組を学び、後生に伝えていく活動を行っている点などが優れている。
4	木曾三川輪中 ミュージアム	岐阜県 海津市	海津市における 水害全般	歴史民俗資料館として開館以降、輪中のなりたちや工夫、河川改修の歴史を、明治時代に築造された木造の樋門など貴重な資料をもとに伝えている。県内外から多くの学校団体の見学を受け入れるとともに、遠隔地の学校に対してオンライン授業を行い、「低い土地の暮らし」について、治水の歴史と水災害に対する防災の重要性を伝えている点などが優れている。

# 「水に備える、未来を守る」 三条市水防学習館



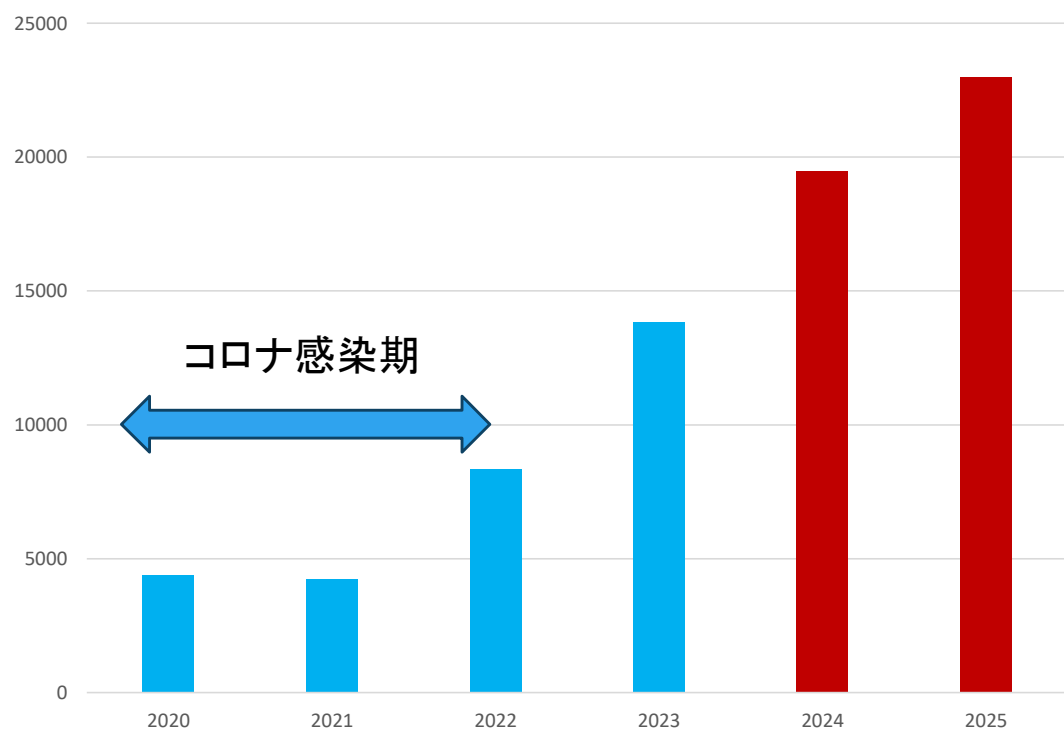
2004年（H16） 7.13水害（新潟福島豪雨）発生  
※2001年に閉場した三条競馬場  
跡地は災害ゴミ置き場となる

2011年（H23） 7.29水害  
（平成23年7月新潟・福島豪雨）発生

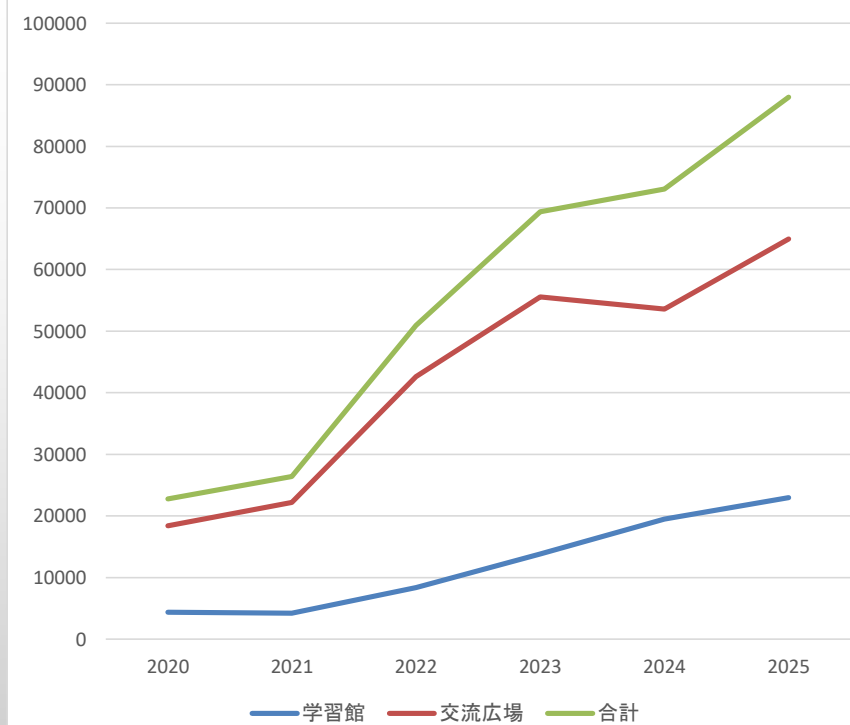
2014年（H26）国土交通省「かわまちづくり」支援  
制度を活用し**三条防災ステーション**  
を設置し、三条市が施設内の一部  
に**水防学習館を開館**

# 施設利用者数の推移

学習館入館者数の推移



利用者数の推移

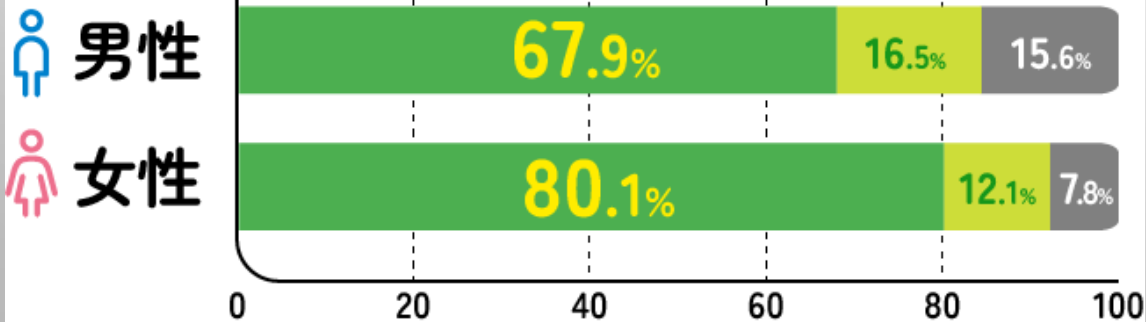


## 疑問？

災害に対する不安をもちながら、なぜ行動変容にいたらないのか

Q あなたは災害に対して不安を感じていますか。  
(ひとつだけ)

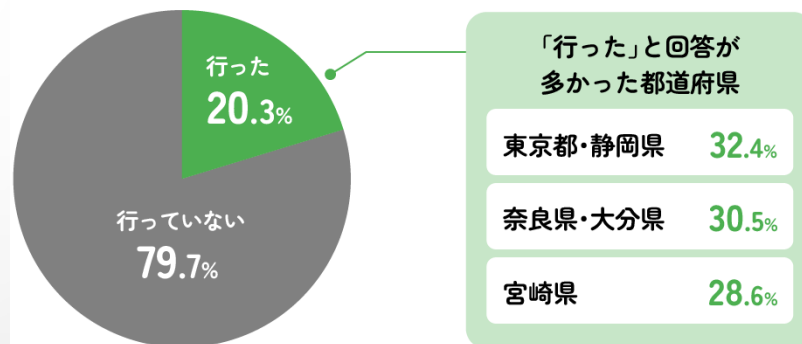
■ 感じている・やや感じている ■ どちらともいえない  
■ 感じていない・あまり感じていない



## 在宅時の備え



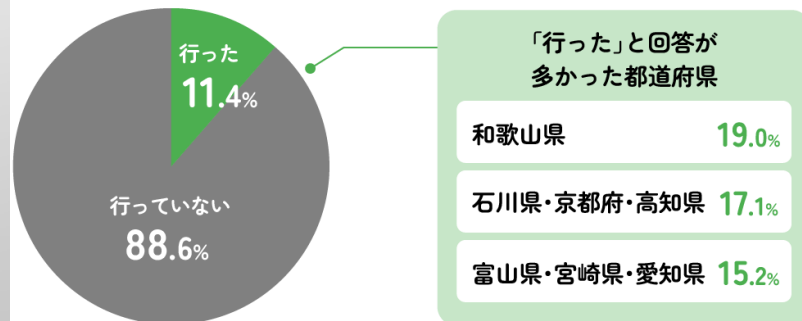
Q 直近1年以内に、在宅時に災害が発生したことを想定した防災対策を行いましたか。(ひとつだけ)



## 外出時の備え



Q 直近1年以内に、外出(通学・通勤・買い物・旅行等)時に災害が発生したことを想定した防災対策を行いましたか。(ひとつだけ)



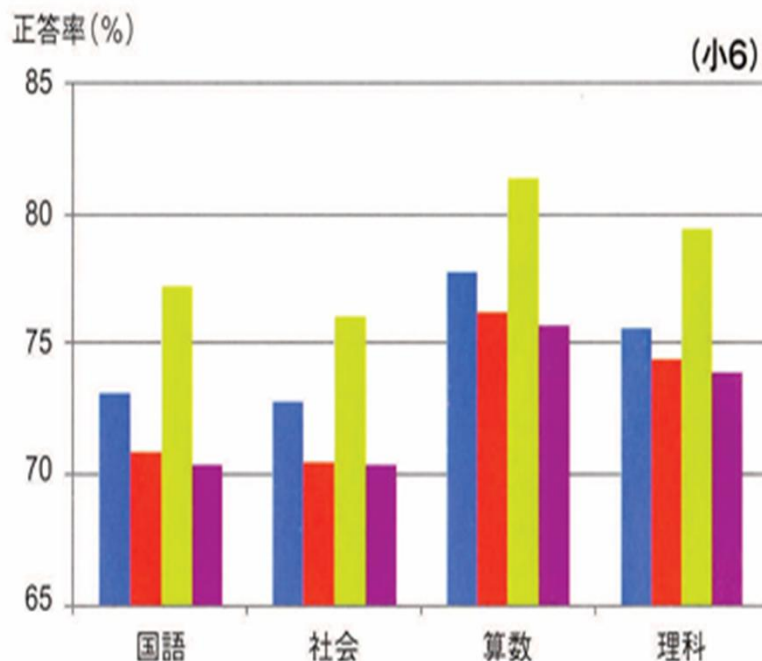
# 行動変容を促す学びに必要なのは自発的取組

## ■ やらされ感はマイナスに

図7 意欲のパターンと学習成績

やらされ感を強く感じているC14群は、内発・外発共に低いC12群（放任されている）と比べても、成績がふるわない

- C11 「内発的意欲」「外発的意欲」ともに高い児童
- C12 「内発的意欲」「外発的意欲」ともに低い児童
- C13 「内発的意欲」は高く、「外発的意欲」は低い児童
- C14 「外発的意欲」は高く、「内発的意欲」は低い児童



## やらされ感をもつ学習

- 他者からの指示  
「これやって、あれやって」
- 脅し  
「これをやらないと大変なことになる」「これをしないと罰を与える」
- 恐怖  
「こんな風になったら怖いから学ぼう」「こうならないように備えよう」

## やってる感をもつ学習

- 大切な人のために  
「家族を守るために学ぼう」
- 夢中になる  
「気が付いたらハマった」
- 思考の束縛がない  
「自由に考え、自由に発言しても評価された」

# 本館が考える防災教育のコンセプト

- 教育学の知見より・・・人間の認知過程

見る・聞く・知る

デジタルの進展によりこの部分はどこでも獲得できる

体験する

「体験により内発的学習意欲を喚起する」

ここを提供することが本館の存在意義となる

思考から行動へ

今後の課題  
ここを含めた学びの場  
にしていきたい

# 学習プログラム開発と活用

## 見学・体験プログラムの様子

### 三条市水防学習館

見学・視察にご利用ください

見学・視察でご利用の場合は、目的に応じて下記のプログラムからお選びいただき、体験していただけます。

まずはお電話またはメールにてお気軽にご相談ください。



**利用者の声**

教科書では学べない多くのことを知りました。三条市の水害や、被害を最小にするための努力について、学校に戻って話し合います。

三条市小学校

教科書にはない川の恵みを感じ、ボールを使った大雨の説明や動画でのグッズづくりを通して、実感を持って理解できました。

新潟市小学校

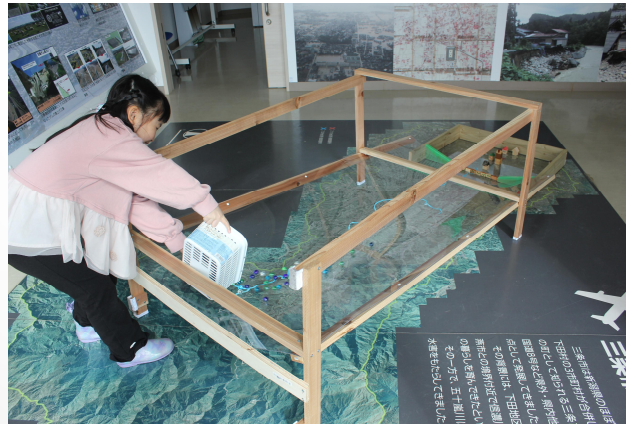
体験を通して、自らが準備することの大切さを実感しました。今度は学んだことを地域づくりに生かしていきたいと思っています。

長野県公民館

三条市の平成16年・23年の災害を教訓とした防災意識向上の取組は、新潟トラブ巨大地震や台風、豪雨の復讐を抱える私にとっても大変参考になりました。

高知県副町長会

講座名	時間(分)	1人料金(円)	対象	内容・教材	備考
1 川の恵み	10	無料	小～一般	車みと川の恵みを学ぶことで教育効果が認められています。ここでは豊かな水が生まれる仕組みを画像により理解していただきます。	
2 二度の洪水災害	10～15	無料	小～一般	1/1,250の地図と写真パネルを活用し、洪水の発生過程を地理学的視点に立って時系列に説明します。	
3 国交省災害対策機材見学	15～20	無料	小～一般	保管されている災害対応車両(ポンプ車・照明車)を異なら、担当者(小輸建設・国交省)が説明します。	防災ステーション
4 洪水体験(車ビデオ)	20	無料	小～一般	7.13水害のビデオ視聴と水没車の水圧体験をしながら洪水災害を考えてもらいます。	
5 防災クイズ	15	無料	小～中9	クイズに答えながら館内の展示品を確認します。学習のきっかけとしても活用できます。	幼児～小2: A 小3～中3: B
6 避難所生活で使うグッズづくり	20～30	無料	小～一般	避難所生活で使う物、身近な道具で作ります。材料は事前にお伝えしますのでご持参下さい。	
7 避難所体験	30	無料	小～一般	避難所の状況を疑似体験したり、非常用の便利グッズを実際に活用して、体験しながら学びます。	
8 非常持出袋の作り方	20～30	無料	小4～一般	各家庭、個人に合った非常持出袋を考えます。非常持出袋として便利なグッズの紹介や置きかえの体験などをしていただきます。	
9 課題解決学習	60	無料	小4～一般	簡単な水害の説明を聞いた後、課題を提示し、その課題を解決するためのグループ(3～4人)で考えたり、考えたりしてもらいます。その結果を発表し合い多様な考えを共有してもらいます。	
10 テント張体験	60	無料	小4～一般	災害時にプライバシーを守り、エコムービー音響からも身を守る避難所はテントだと考えます。実際に家族用テントを張り、テント内の居住体験をして、片付けまで行います。	屋内(雨天中止) 参加が可能なことがあります
11 読図体験(reading maps)	30～	無料	小～中3	ハザードマップ、防災マップとありますが、マップ(地図)とは異なる地図を基に施設内各所にある危険を示して読図に親しみます。	
12 降雨体験	10～15	無料	小～一般	1時間降水量20mm～150mmの雨を体験できます。どのくらい雨が危険なのかを体験できるプログラムになっています。	屋内(雨天中止) 参加が可能なことがあります
13 発電機、蓄電池の使い方	20	無料	小～一般	災害時にはとて便利な発電機や蓄電池を実際に操作し、どのような使い方ができるかを考えます。	
14 土嚢づくり体験	20	無料	小4～一般	洪水時に、家屋への水の侵入を防ぐために有効な土嚢の作り方を体験します。作った土嚢で実際に水を防いだ体験も行います。	
15 ポータブルトイレの使い方	20	1人50円	小4～一般	避難先で問題になるトイレを疑似体験します。	講師謝金(2,000円(一人))他、講演交通費実費
16 被災者の体験を聞く	20～40	諸費用実費	小～一般	実際に被害にあわれた方の経験、体験を直接聞くことができます。その後質疑応答も可能です。	※アレルギー・音響部
17 災害食試食	15～30	1人100円～	小～一般	用意された非常食を試食し、感想を発表し合います。災害食は平時に食べ慣れておくことが大切です。	



2. 二度の洪水災害



14. 土嚢づくり体験



17. 災害食試食



3. 国交省災害対策機材見学

# 施設機能を活かした入口戦略



キャンプ

伝統文化

防災意識  
の向上

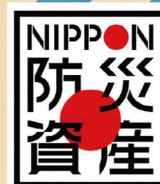
スポーツ

各種  
イベント



# 三条市水防学習館

見学・視察にご利用ください



見学・視察でご利用の場合は、目的に応じて下記のプログラムからお選びいただき、体験していただけます。

まずはお電話またはメールにてお気軽にご相談ください。

## 利用者の声

教科書では学べない多くのことを知りました。三条市の水害や、被害を最小限にするための努力について、学校に戻って話し合います。

三条市小学校

教科書にはない川の恵みを学び、ボールを使った大雨の説明や新聞紙でのグッズづくりを通して、実感を伴って理解できました。

新潟市小学校

体験を通して、日ごろから備えることの大切さを実感しました。今後は学んだことを地域づくりに生かしていきたいと思います。


長野県公民館

三条市の平成16年・23年の災害を教訓とした防災意識向上の取組は、南海トラフ巨大地震や台風、豪雨の課題を抱える私どもにとって大変参考になりました。

高知県副町長会

## 三条市水防学習館 見学・体験プログラムリスト

	講座名	時間(分)	1人料金(円)	対象	内容・教材	備考
1	川の恵み	10	無料	小～一般	恵みと災いの両面を学ぶことで教育効果が認められています。ここでは豊かな水が生み出す恩恵を画像により理解してもらいます	
2	二度の洪水災害	10～15	無料	小～一般	1/1,250の地図と写真パネルを活用し、洪水の発生過程を地理学的視点に立てて時系列に説明します。	
3	国交省 災害対応機材見学	15～20	無料	小～一般	保管されている災害対応車両(ポンプ車・照明車)を見ながら、担当者(小柳建設・国交省)が説明します。	防災ステーション
4	洪水体験(車・ビデオ)	20	無料	小～一般	7.13水害のビデオ視聴と水没車の水圧体験をしながら洪水災害を考えてもらいます。	
5	防災クイズ	15	無料	小～中3	クイズに答えながら館内の展示品を確認します。学習のまとめとしても活用できます。難易度が低いクイズ:A 高いクイズ:B	幼児～小2:A 小3～中3:B
6	避難所で役立つグッズづくり	20～30	無料	小～一般	避難所生活で使う物を、身近な道具で作ります。材料は事前にお伝えしますのでご持参下さい。	
7	避難所体験	30	無料	小～一般	避難所の状況を疑似体験したり、非常用の便利グッズを実際に使用して、体験しながら学んでいきます。	
8	非常持出袋の作り方	20～30	無料	小4～一般	各家庭、個人に合った非常持出袋を考えます。非常持出物品として便利なグッズの紹介や重さの体験などをさせていただきます。	
9	課題解決学習	60	無料	小4～一般	簡単な水害の説明を聞いた後、課題を示し、その課題を解決するためグループ(3～5人)で調べたり、考えたりしてもらいます。その結果を発表し合い多様な考えを共有してもらいます。	
10	テント張体験	60	無料	小4～一般	災害時にプライバシーを守り、エコノミー症候群からも身を守る避難場所はテントだと考えます。そこで実際に家族用テントを張り、テント内の居住体験をして、片付けまで行います。	屋外(雨天中止) ※多少濡れることがあります
11	読図体験 (reading maps)	30～	無料	小～中3	ハザードマップ、防災マップとありますが、マップ(地図)を見る技術がないと意味がありません。ここでは簡易な地図を基に施設内各所にある宝探しをして読図に親しみます。	
12	降雨体験	10～15	無料	小～一般	1時間降水量20mm～150mmの雨を体験できます。どのくらいの雨が危険なのかを体感できるプログラムになっています。	屋外(雨天中止) ※多少濡れることがあります
13	発電機、蓄電池の使い方	20	無料	小～一般	災害時があると便利な発電機や蓄電池を実際に操作し、どのような使い方ができるか考えます。	
14	土嚢づくり体験	20	無料	小4～一般	洪水時に、家屋への水の侵入を防いだりする際に有効な土嚢の作り方を体験します。作った土嚢で実際に水を防ぐ実験も行います。	
15	ポータブルトイレの使い方	20	1人50円	小4～一般	避難先で問題になるトイレ、また、渋滞中に便利なポータブル(簡易)トイレを疑似体験します。	
16	被災者の体験を聞く	20～40	諸費用実費	小～一般	実際に被害にあわれた方の経験、体験を直接聞くことができます。その後質疑応答も可能です。	講師謝礼:2,000円(一人) 他、講師交通費実費
17	災害食試食	15～30	1人100円～	小～一般	用意された非常食を試食し、感想を発表し合います。災害食は平時に食べ慣れておくことが大切です。	※アレルギー要確認

	講座名	時間(分)	一人料金(円)	対 象	内容・教材	備 考
18	火おこし体験	15～30	1人 50円～	小4～	グループで着火体験をします。着火できなかった場合はマッチ等で薪に火を付けます。	屋外 ※人数により雨天中止の場合があります
19	車用ウィンドウ破壊体験 ～水没車からの脱出～	30	1枚 3,000円	小～一般	洪水時乗車している車が水没したり、運転を誤って川や池に落下してしまう事故があります。その時はすぐにウィンドウを割って脱出する必要があります。ここでは、実際に車に使われているウィンドウを割る体験をします。	
20	車用ウィンドウ破壊体験② ★破壊用道具セット	30	1枚 5,000円	小～一般	19の体験の後、ウィンドウを割る道具(部品製造から組立まで燕・三条製)を、ウィンドウ1枚につき1個お付けします。この体験に参加された方は通常価格 4,100 円の商品を 3,000 円にて販売します。	
21	バッククッキング	50	500円～	小3～	自分たちで簡易な道具を使い調理します。調理後は試食できます。メニューは何種類かご提案できます。	屋外(雨天中止) ※アレルギー要確認
22	防災スキルスタンプラリー	30～	1人 200円～	小3～	新割り体験や救護方法、ロープワーク、非常食の試食など、館内のワークショップを体験しながらスタンプラリーに挑戦します。終了後には、参加者にオリジナルステッカーをプレゼントします。	
23	衣類圧縮機利用体験	10～15	1回20円 ～50円	小～一般	非常持出袋を用意する際、着替えやオムツ、防寒着などがさ張る物を圧縮した方が便利です。実際に圧縮機を操作してもらう体験です。	簡易袋 20円 専用袋 50円
24	寒冷期の備え体験	30～	実費	小～一般	寒冷期の避難時には、他の季節と違った準備と知識が必要になります。身近にある物を使って寒さを防いだり、温かさを保つ体験をします。	
25	高温期の備え体験	30～	実費	小～一般	高温期の避難時では、熱中症対策や食品の管理など専門的な知識が必要になります。簡易な道具で遮熱したり、体温を下げる体験をします。	

【ガイド・解説】五十嵐 一浩(三条市水防学習館館長) 元三条市立第四中学校長



### 【研修パック】

※その他、組み合わせは自由にできます。

①	一般団体	○60分コース：1・2・3・4 / ○30分コース：1・2・4
②	視察	○30分コース：2・3・4
③	小学生	○60分コース：1・2・3・4

## 授業・研修 一覧表

	授業・研修名	内 容	対 象	備 考
1	防災基礎講座	様々な災害があることを理解し、発災時の対応や日頃の備えについて基本的なことを学んでもらいます。	小～一般	
2	心の防災教育	何のために防災を学ぶのか考える中で、自己の生き方や他者との協力、思いやりの大切さを再認識します。防災を主題にした道德教育のひとつになります。	小～一般	【道德内容項目】 「主として他の人とのかわりに関すること」思いやり・親切・人間愛、その他に関わる内容になります。
3	洪水災害	新潟県防災教育プログラムに沿って授業を展開します。(TT可、指導案作成の支援可、カリキュラムマネジメント作成の支援可)	小～中学校	メール、オンラインでの相談のみの対応も可能です。また、オンラインによる授業にも対応します。
4	地震災害			
5	津波災害			
6	土砂災害			
7	雪災害			
8	原子力災害			
9	命を守る避難の仕方	避難の仕方、災害地域マップ作り、マイ・タイムラインの作成、避難所運営を学んでもらいます。	小～中学校	作業学習が中心になります。
10	防災教育とSDGs	SDGsを学び実践することと、防災を学ぶこととの関連性を考えてもらいます。	中～一般	
11	自然環境とエネルギー	地球温暖化による洪水災害の多発、温暖化を促進するエネルギー事情をグループワークで解き明かします。	中～一般	

○ 場所：水防学習館 学習室 他 ○ 時間：30分～120分  
○ 受講生数：1～30人程度 ○ 費用：無料(材料費等は実費ご負担願います)

## 三条市水防学習館

955-0091 新潟県三条市上須頃 167-1

TEL 0256-35-6520

FAX 0256-35-6521

MAIL: info@mizbering-sanjo.com

▼ ホームページ

